

VR・メタバース福祉活用

小樽商大など共同研究

小樽商科大学と北見工科大学、介護事業を手掛けるさっぽろコミュニケーションサービス(さっぽろCS、札幌市)は介護・福祉における仮想現実(VR)や仮想空間(メタバース)の活用で共同研究を始めた。介護・福祉分野におけるVRやメタバース活用のアイデアを若手社員から募り、新規事業の創出や起業につなげていく。

さっぽろCSは社員5人が参加するアイデア出しのワークショップ第一弾を27日開いた。例えば、介護施設に同居する高齢者や障害者がVRを装着し、好きな場所を訪れるといった疑似体験ができる方法などを研究する。社会に関心を持ってもらえれば、高齢者の健康寿命を伸ばせるとみられる。

ワークショップは3週間に1回程度開き、共同研究は1年の予定だ。同社の中元秀昭社長や小樽商大の猪口純路教授、北見工大の早川吉彦准教授らが参加する。小樽商大、

コープさっぽろの大見理事長

小樽商大 特認教授に

コープさっぽろ(札幌市)は27日、同社の大見英明理事長が小樽商科大学(北海道小樽市)の特認教授に就任したと発表した。任期は4月から2年間。秋から2週間に1回のペースで同大の社会人向け講義を担当する。

コープさっぽろは2023年春から、学生向けの寄付講座も設ける。

大見氏はこれまで年1〜2回ほど小樽商大の講義で講師をしていた。コープさっぽろは08年に同大と小売業界の研究に関する連携協定を締結。09年からは同大の教員を幹部向け社内研修の講師として招いていた。



小樽商大の特認教授に就任したコープさっぽろの大見理事長(左)

コープ大見理事長 小樽商大特認教授に

コープさっぽろは27日、大見英明理事長が4月1日付で小樽商科大学の特認教授に就任したと発表した。22日に辞令交付された。

コープさっぽろと同大は2008年に連携協定を締結。大見理事長は同大で外部講師として「地域学」の講義を担当し、宅配サービスに関する共同研究やコープさっぽろの内部教育などでも連携してきた。特認教授として同大ビジネススクールの講座を担当するほかコープさっぽろの寄付講座を開設するという。(権藤泉)